

イザヤ書 第6章 5節

そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の主である王を、この目で見ただから。」

私は言ったから始まり、もうだめだ、と告白が続く。私は言ったからには、言う者にはっきりとした自分の実態がわかっている。茫然自失のまま発した告白ではない。それだけに、私はもうだめだの言葉は審くお方の前で裁かれている絶望、息の根が断たれるものである。さらに深刻な自己認識が発せられる。私はくちびるの汚れた者。こころを発するくちびるが汚れている。うちなるけがれを、汚れたくちびるで発する者である。そして、くちびるの汚れた民の間に住む。そこから抜け出しようもなく生活している。ああ。私は、もうだめだ。

もうだめだ、と告白する者は万軍の主、王を見ている。見たからこそ、ああ、と叫び、もうだめだ、言うしかない自分が明らかにされた。同時に、見たのは万軍の主、王である。もうだめだ、と絶望する者の前に万軍の主、王がおられる。くちびるの汚れた者、くちびるの汚れた民が見ることをゆるされる万軍の主、王がおられる。その者のため、その民のために万軍の主、王がおられる。ああ、としか発することのできない者のために万軍の主、王がおられる。

2023年6月20日